

図2・4 - 山岳森林土壌の分類・分布と天然林との対応を示す模式図
 <1973 山谷による>

垂直帯	代表的天然林	分布様式と生成因子					
		成帯的		中間的		局所的	
		気候	地形	気候	地形	母材	母材
高山帯	お花畑 ハイマツ林	山岳ポドゾル					
亜高山帯	アオモリドマツ林(矮型)	泥炭ポドゾル					
	アオモリドマツ林	腐植型湿性ポドゾル(山岳腐植土)					
山地帯	フナ・ダケカンバ林	暗色系褐色森林土					
	フナ林 ヒノキ林・スギ林・ヒノ林 フナ・ミズナラ林	褐色森林土					
丘陵帯	クリ・コナラ林 アカマツ林 常緑広葉樹林	黄褐色森林土					

図2・1 土壌図 <原図 森林立地懇話会編 森林土壌図1972を簡略化・注1>

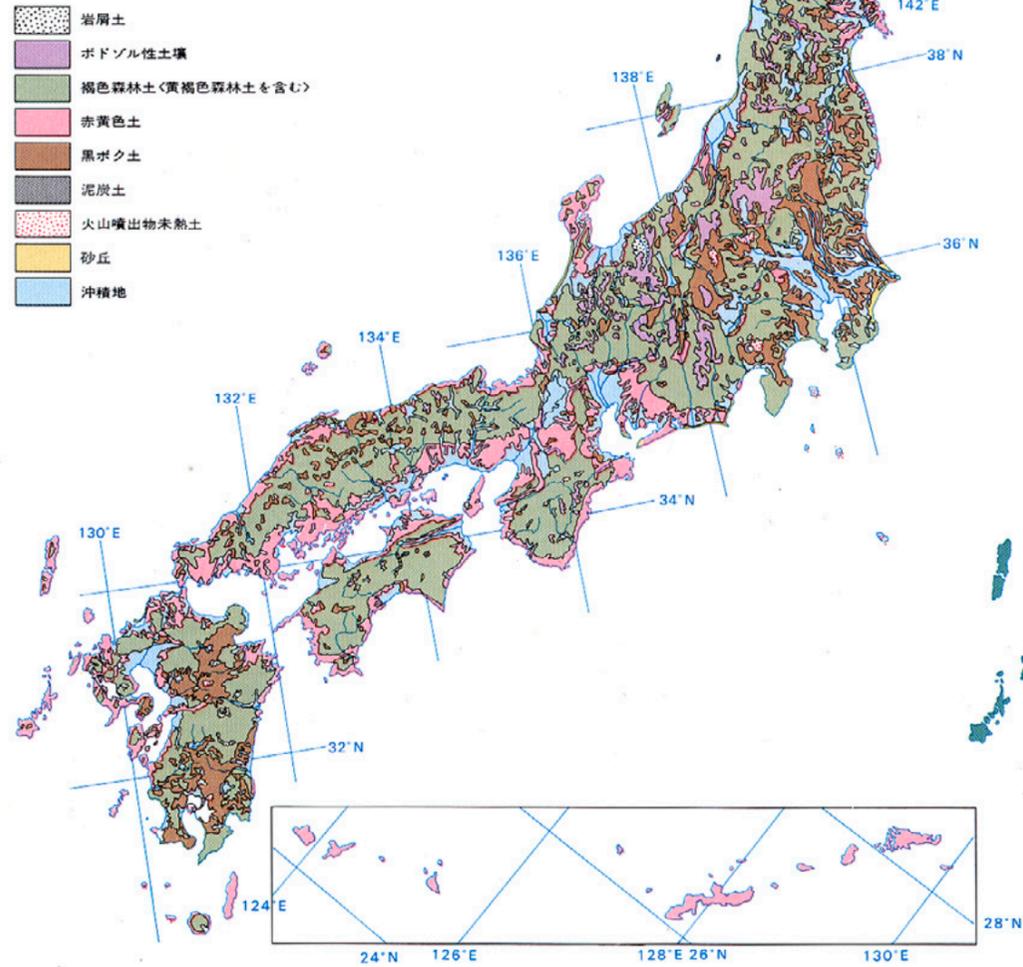


図2・2 - 植生図 <原図 鈴木時夫 1976>

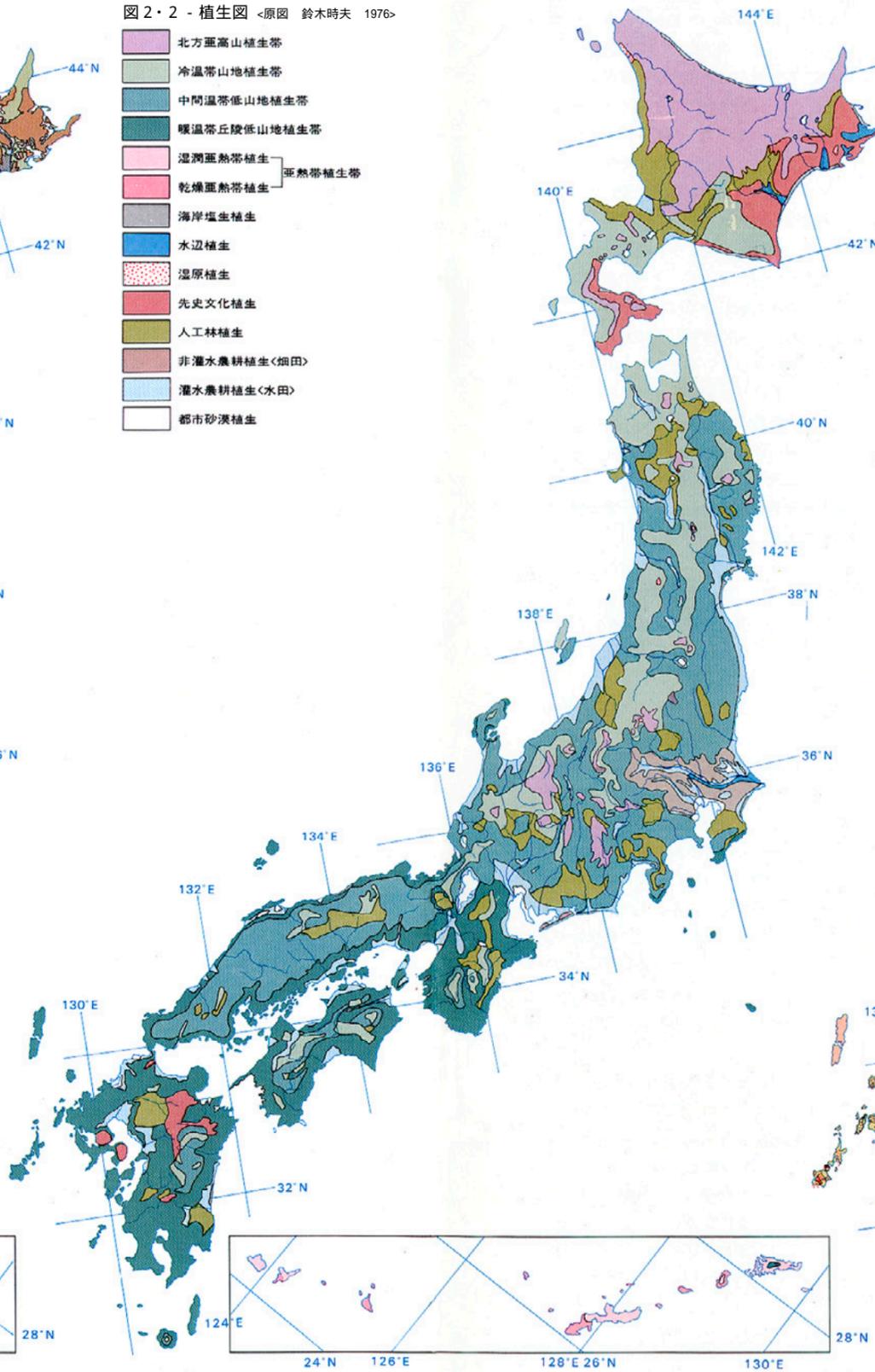
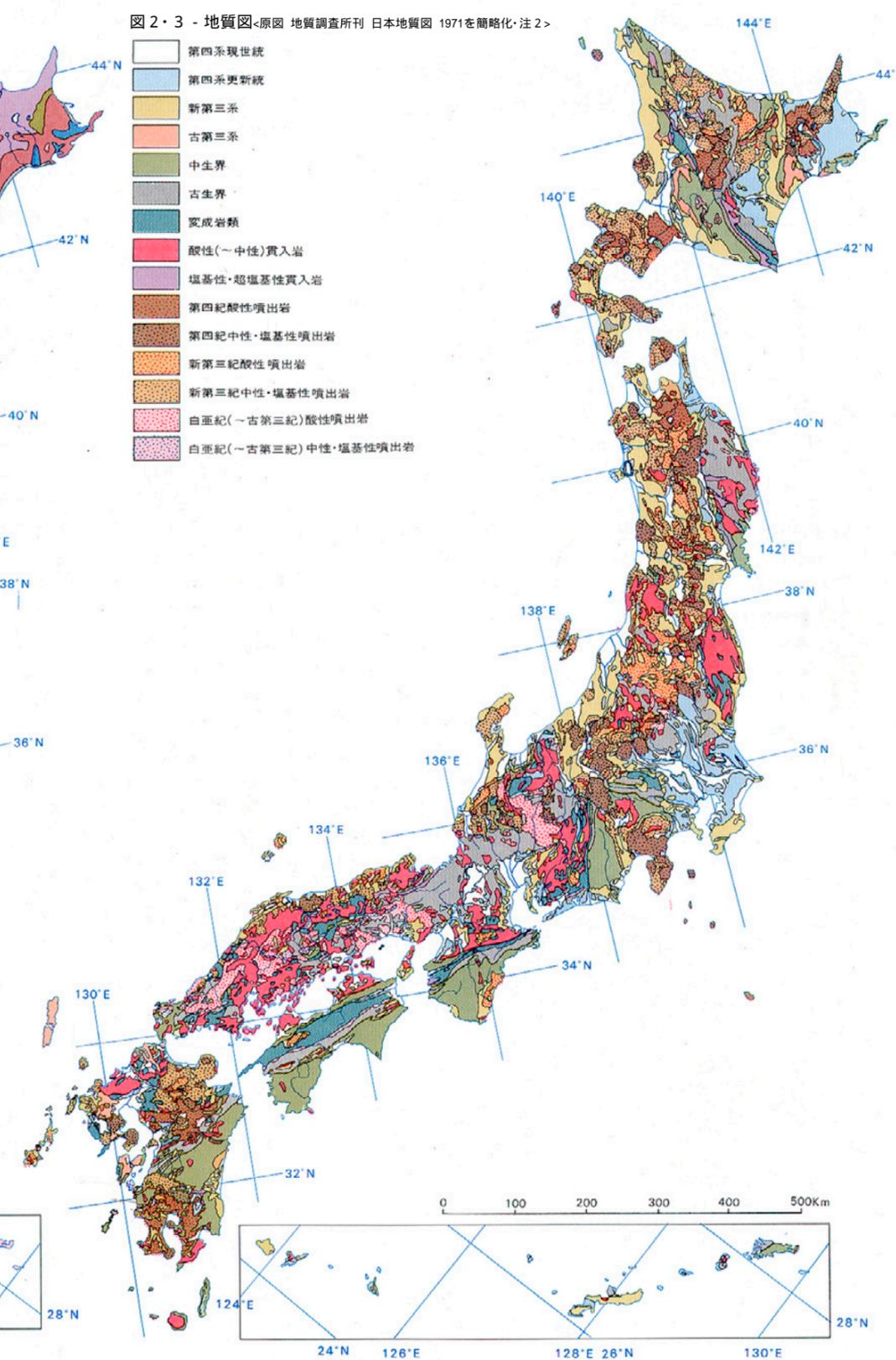


図2・3 - 地質図 <原図 地質調査所刊 日本地質図 1971を簡略化・注2>



注1 図2・1土壌図は、縮尺1:2,000,000の原図を以下のように簡略化した。岩屑土=高山性岩屑土, 岩屑土・ポドゾル性土壌=湿性ポドゾル・湿性ポドゾル・乾性ポドゾル混在区, 乾性ポドゾル・褐色森林土混在区, 暗色系褐色森林土・褐色森林土=適潤性褐色森林土, 乾性褐色森林土・赤黄色土=赤色土, 黄色土, 暗赤土, 赤黄色土未熟土, 黒ボク土=黒ぼく土, 淡色黒ぼく土, 泥炭土=原図に追加 他は原図。

注2 図2・3は、縮尺1:2,000,000の原図を以下のように簡略化した。第四系現世統=原図, 第四系更新統=原図, 新第三系=鮮統統, 中新統, 古第三系=原図, 中生界=四万十累層群, 白亜系, ジュラ系, 三疊系, 古生界=古生界上部-中生界下部, 二疊系及び石炭系, デボン系及びシルリア系, 変成岩類=結晶片岩・千枚岩(三郡・三波川・カムイコタンなど), 雲母片岩・片麻岩(領家・阿武隈・日高など), 片麻

岩(飛騨), 酸性(～中性)貫入岩=中新世, 白亜紀後期(～古第三紀), 白亜紀中期またはそれ以前, 中生代前期または古生代後期, 塩基性・超塩基性貫入岩=第三紀, 先第三紀, 第四紀噴出岩=酸性及び中性・塩基性ともに原図, 新第三紀酸性噴出岩=鮮新世, 中新世, 新第三紀中性・塩基性噴出岩=鮮新世, 中新世, 白亜紀(～古第三紀)噴出岩=酸性及び中性・塩基性ともに原図